

平成 25 年  
2 月 27 日

# 病虫害発生予報 3 月号

茨城県病虫害防除所  
茨城県植物防疫協会

農薬は農薬使用者が責任を持って使用しましょう！  
～うっかりミスにご用心！使い慣れた農薬でも、  
使用前に農薬のラベルを必ず確認しましょう～

## < 目 次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病虫害】

イチゴ：うどんこ病，ハダニ類 . . . . . 1

促成トマト：灰色かび病 . . . . . 2

促成キュウリ：うどんこ病 . . . . . 2

促成トマトの黄化葉巻病について . . . . . 3

【その他の病虫害】 . . . . . 3

イチゴ，促成ピーマン，促成キュウリ，春ハクサイ，春レタス

### II. 今月の気象予報 . . . . . 4

本文に記載されている薬剤は平成 25 年 2 月 13 日現在のものです。  
最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)）で確認することができます。

詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。  
茨城県病虫害防除所 Tel : 029-227-2445  
予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。  
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### イチゴ

##### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病株率は平年よりやや高く(本年値 3.1%, 平年値 2.1%), 発生地点率は平年並(本年値 22%, 平年値 23%)である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生の少ないうちに初期防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 発病の予防には、硫黄のくん煙処理が省力的で有効である。
- ⑤ ミツバチや天敵を導入している圃場では、薬剤の選定に十分注意する。
- ⑥ 薬剤によっては、果実が汚れる場合があるので、十分注意する。

##### 2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、被害葉率は平年よりやや高く(本年値 22.8%, 平年値 7.3%), 発生地点率は平年より高い(本年値 78%, 平年値 41%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチや天敵を導入している圃場では、薬剤の選定に十分注意する。

## 促成トマト

### 1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在, 発病株率(本年値 0.8%, 平年値 2.8%), 発生地点率(本年値 20%, 平年値 26%)ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので, 換気, 送風, 暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪い花卉や, 罹病部は早急に取り除き, ハウス外に持ち出して処分する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため, 発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ④ 薬剤散布は, 薬液が乾きにくくなる午後からは行わず, 晴れた日の午前中に行う。また, 曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は, くん煙剤を利用する。
- ⑤ 薬剤は, 薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で, 丁寧に散布する。また, 薬剤耐性菌の出現を防ぐため, 系統の異なる薬剤を散布する。

## 促成キュウリ

### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い~多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在, 発病葉率は平年よりやや高く(本年値 9.0%, 平年値 2.9%), 発生地点率は平年より高い(本年値 63%, 平年値 37%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため, 発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため, できるだけ葉は取り除き, ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は, 薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また, 薬剤耐性菌の出現を防ぐため, 系統の異なる薬剤を散布する。

## 促成トマトの黄化葉巻病について

### [現在の状況]

- ① 2月下旬現在、平年並～やや多い発生である。なお、圃場により発生量にばらつきがある。

### [防除上注意すべき事項]

- ① 発病が認められた株は、伝染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を腐熟化する等してから処分する。
- ② 媒介虫であるタバココナジラミを防除する際は、寄生する葉裏に十分薬液がかかるよう、下方から吹き上げるよう丁寧に散布する。
- ③ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	アブラムシ類	発生量：やや多い	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
	斑点病		
促成キュウリ	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
促成キュウリ	ミカンキイロアザミウマ	発生量：やや多い	2月下旬現在、ミカンキイロアザミウマとミナミキイロアザミウマは、ともに平年よりやや多い発生である。
	ミナミキイロアザミウマ		
春ハクサイ	べと病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
春レタス	菌核病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。

## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 2月23日から3月22日)

気象庁(2月22日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	40	30	30
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 2月23日(土曜日)から3月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率50%

<2週目の予報> 3月2日(土曜日)から3月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 3月9日(土曜日)から3月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。